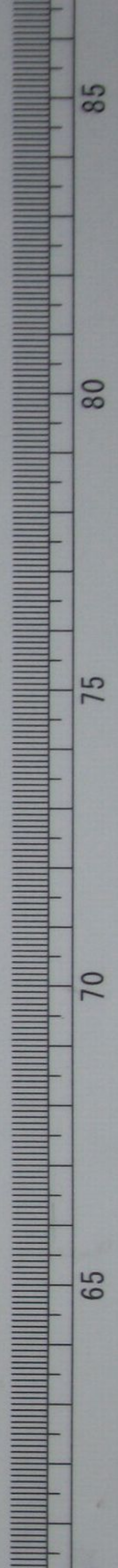


海分新聞

四

西垣文庫 時
文庫10
7270
3

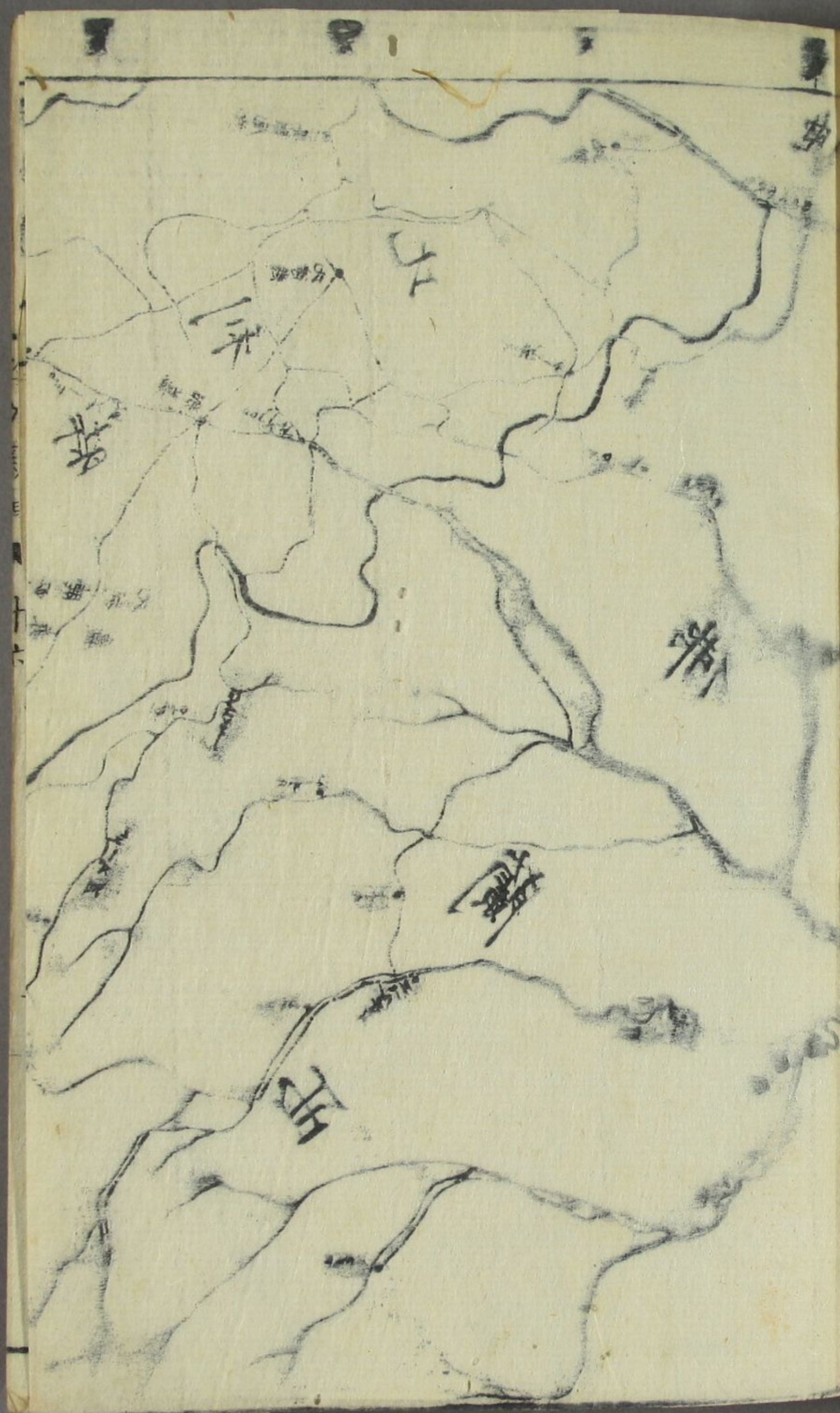


海外新聞十六號



庚午九月十九日





特文庫10
7270
3

西垣文庫



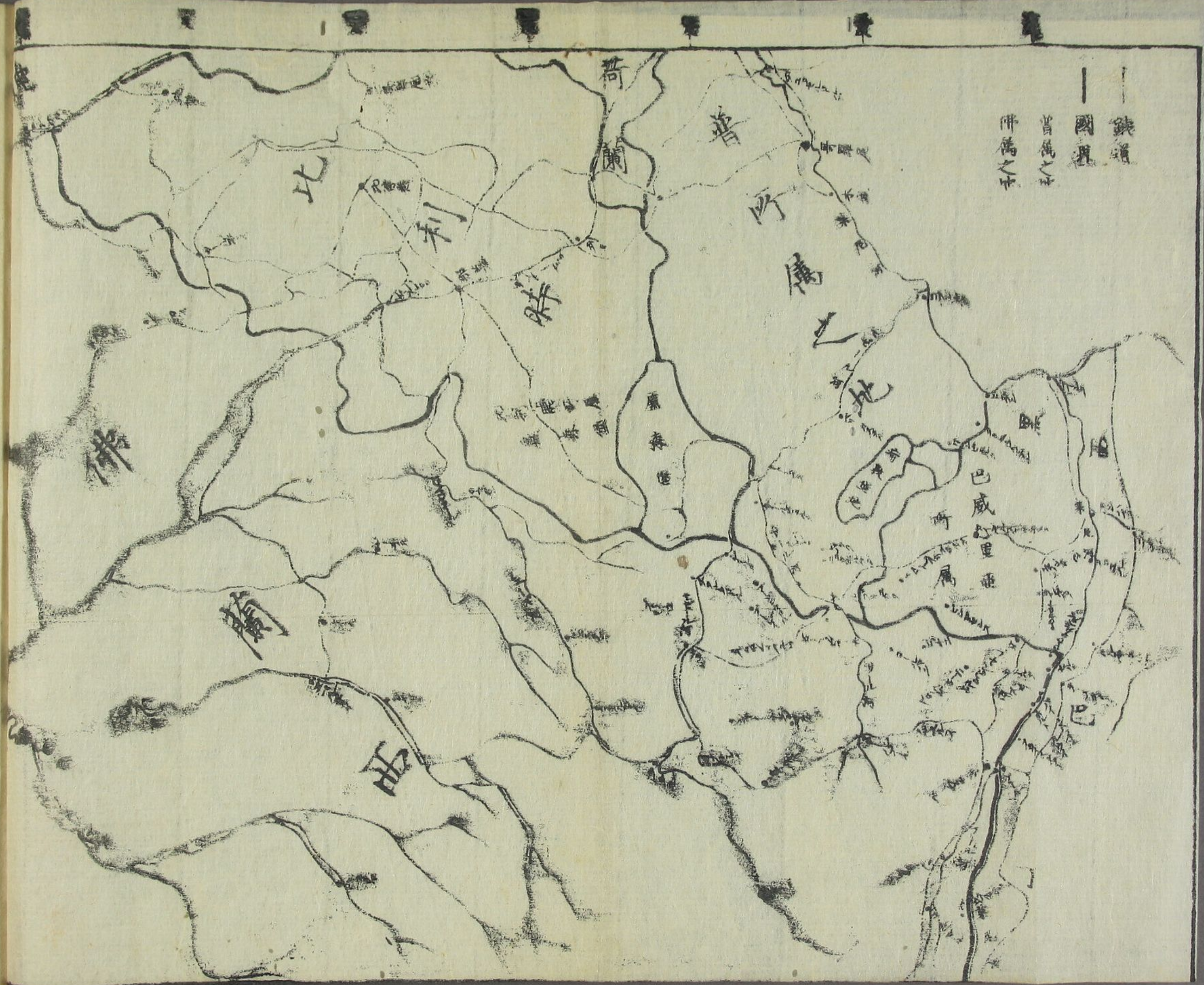
海外新聞十六號

千八百七十年桑方西斯哥每週刊行新聞第
二十九號ヨリ抄譯ス

普國諸將略傳

第一モルトケノ傳

今般普軍ノ大將タルコラント、フラン、モルトケト
聞ヘシハ其軍略ニ長シタル事實ニ今ノ世ニ肩
ヲ比フル者無ルベシト其國人ハ信任セリトコ
ハ其國人溢羨ノ餘言ニ出ルナル可ケレト又其



海外新聞十六號

千八百七十年
 桑方西斯哥
 每週刊行新聞第
 二十九號ヨリ抄譯ス

普國諸將略傳

謂レ無キニシモ非スト思ハルレハ先第一ニ其傳ヲ掲ケルナリ

モルトケハ紀元千八百年マクレンビュルダニ生
ル青年ニシテ噠國ノ軍役ニ加リ轉シテ普國ニ
來ル常ニ精ヲ勵シ兵事ヲ講究シテ怠ル事ナシ
千八百三十二年軍中雜務ヲ司ル長官ニ任セラ
レ居ルト三年ニシテ亞西亜ヲ歴遊シ七且其二
到リ國王マムールド氏ニ謁ス時ニ其國兵制ヲ
改革スル最中ナリシカハ王之ニ數年ノ間留リ

テ共ニ其謀ニ與リ且其兵ヲシリニアニ出スヲ助
ン事ヲ請ヒシトナリ普國ニ歸リシ後千八百五
十六年當今王其頃ハ太子タリシカ其副將軍ニ
任セラレ千八百五十八年軍中雜務總督ニ轉任
ス翌年佛ノオーストリア戰ヒシ時其兵ヲ以太利ニ進入
スルヲ止ルノ策ハ全ク此人ノ方寸ヨリ出シナ
リサレハ佛帝カ人モ思ヒ付カサルニ俄ニウイ
ルラブランカ以太利ノ地ニテ和睦ヲ結ヒシモ此疑
懼ヲ抱ケル故ナルベシト當時其風說アリケリ

千八百六十四年ニ王族チアーレスカ軍ノ雜務
總督トナリ連國ヲ征ス千八百六十六年ニ於テ
塙ト戦ヒシ片ハ巧ニ兵ヲ用フルヲ以テ名ヲ著
シタリ此役ヤ終始此人ノ計策ニ出デサルモノ
ナシ然ルニ其戦争ノ間ハ其名却テ大ニ聞ヘズ
シテ麾下ノ將士ノ聲譽赫著セルモノ多カリシ
其ハ此人自陣頭ニ進ミ出タルハフーニンググ
ラツノ戦ノ時ノミナレハナリ斯ク其身ハ常ニ
帷幕ノ裡ニ坐セリト雖モ電機ノ信ヲ用ヒテ諸

隊ノ動靜ヲ了悉シ一卷ノ輿圖ヲ繙キテ吾軍ノ
行進ヲ檢察シ數條ノ銅線電信ニ依リテ其進退
合散ヲ指揮スルニ十舉一失ナシ且此際彼此ノ
勝敗ハ論スルニ及ハス自為ス所ノ瑣末ノ事ニ
至ルマテ手自テ記載シテ遺漏無リトナリ斯
ク干戈倥傯ノ際ニシテ舉措機ニ中レルノミナ
ラス細事ニモ力ノ及ヘルハ彼ノ所謂英雄ノ胸
懐自ラ餘裕アリトハ此人ヲヤ云フナル可ト歐
洲各國ノ人賞嘆セサル者ナシ諸此役終リテ後

普國ト南方曰セ呀漫諸國ト會合シテ和ヲ議スル
時ニ方リ此人ビスマルクト共ニ全權公使トナ
リテ假條約ヲ結ヒタリ當時普ノ全勝ヲ收メタ
ルハ全ク此人ノカニ依レリト國王殊滿悅ノ餘
ブレツキ、イীগルノ賞牌ヲ賜ヘリトナニ是實
ニ異數ノ恩典ナリト謂フ可シ

第二王族フレデリック、チャーレスノ傳

王族フレデリック、チャーレスハ當今普王ノ弟、
レスノ長子ナリ千八百二十八年ニ生レ弱冠ヨ

リ專ラ心ヲ軍事ニ委ヌ騎兵ノ將トナリ軍務ノ
重任ヲ兼ヌ國中諸士ノ倚賴極メテ重シ千八百
六十四年兵ニ將トシテ噍國ヲ撃チ千八百六十
六年墮ノ役ニ前軍ニ將トシテ路ヲサキソニニ
取リホヘミア地ノニ入リシカ其サキソノ境
界ニ到リシ時麾下ノ將士ニ令シ一毫モ犯ス所
無カラシム土人由テ其兵卒ヲ相親ムト友誼ニ
等シ是ヲ以テ其軍ヲ進ムルニ恰モ無人ノ境ニ
入ルガ如ク俄ニボヘミアノ地ニ出テ墮將ベ子

テッキヲ襲ヒタリ初メベ子デッキ普軍ヲ襲撃セン
ト計リシニ反テ普軍ノ侵襲ヲ受ケシカハ周章
措ク所ヲ知ラス忽チ敗走ニ及ヒシトナリ連ニ
勝テ塙兵ヲサドワニ退カシメ進テコーニング
クラツツニ至ル適太子ノ此日ノ勝敗ヲ決センガ
為メニ第二軍ヲ率ヒテ来レルニ會シ兵ヲ合セ
共ニ戦テ大ニ塙ノ軍ヲ破ルト云フ平生人ニ對
スルニ能ク其面ヲ記シ其名ヲ忘レス縱令一回
謁見スル者ト雖モ如シ道路ニ逢フ時ハ必ス殷

懃ニ之ト語レリ之ニ依テ大ニ將士ノ心ヲ得士
卒等亦皆其能ク己等ガ為メニ配意シテ等位ヲ
進ムルヲ知レリト云フ曩ニ英ノ一士人塙ノ
役ニ此人ト共ニ戰場ニ出テ其兵ヲ用フルヲ見
シニ常ニ騎兵等ノ劇ク驅馳スル間ニ加ハリテ
敗走スル敵ヲ逐撃スルニ步兵砲兵ヲモ之ニ隨
ハシメ敵ノ勁隊ニ會フ時ハ之ヲシテ破ラシム
トナリ此人又能ク其士卒ヲシテ危難ヲ忘レ身
命ヲ顧ミガラシム故ニ進時ハ自ラモ卒伍ニ加

ハリ高聲ニ士卒ヲ励マシ戦ヒ疲レ伍ヲ紊スヲ
見レハ一二愉快ノ語ヲ發シ之ヲシテ隊伍ヲ整
ヘシム此人又普國ノ將卒ヲシテ險ニ臨ミ難ニ
耐ユルノ習ヲ為サレメン事ヲ勉メタリ故ニ其
將卒ヲ遇スル常ニ寛裕ニシテ仁慈アリ規矩ヲ
以テ之ヲ待タズ彼千八百六十六年ノ戦ニ普軍
ノ銳鋒當ル可カラザリシモ此人ノ與ツテカア
ルモノ多シト云フ

第三太子フレデリック・ウイリアムノ傳

太子フレデリック・ウイリアムハ千八百三十一年
ニ生ル同六十四年墺ノ役ニ第二軍ノ總督トナ
リ其麾下雜務ノ長ニハマジヨルゼ子ラールホク
フリユメンタールアリホン、ボランホン、マタイン
メツツホン、ミユチ、瓦斯等ガ率ユル所、三隊ノ兵及
ヒウールテン、ビュルグ侯カ率ユル所ノ衛兵隊ヲ
合セ大約十二万五千、兵ヲ引率シテシレシア
ヨリセチック丘ノ險ヲ踰エントス此時墺ノ兵ニ
會シ戦甚困難ニシテ屢危トアリレガ力戦シテ

遂ニ其險ヲ踰エタリ是ヨリ前壘將ベ子デッキ大
軍ヲ引率シテ王族ヲアルレマヲ襲ハントス太子
偵シテ之ヲ知リ急ニ進テ壘兵ノ不意ニ出テキ
一レスト兵ヲ合セ大ニ之ヲ敗ルト云フ居恒ニ
自ラ勞ヲ厭ハズシテ善ク兵卒ヲ慰勞シ親ラ其
傳舎病室ヲ巡見ス然レ其過失ヲ正シ職分ヲ
責ル等ニ至リテハ毫モ假ス_レ無シ其ミルトン
ヨリコロニンングラツニ進ミ連捷ボヘミアニ入
シヨリ世人始メラ其勇畧ヲ知ルト云フ

同上新聞紙ヨリ抄譯ス

シウオールト氏カ支那印度ヲ歴遊スルノ風説
今般合衆國ノ前首相ウイルリアム、ヘンリーシウ
ールド氏其姪ジョージ、シウオールドト共ニ支那
ニ到リ夫ヨリ日本ヲモ歴遊セントテ来ル九月
一日我八月六日ニハ桑方西斯哥ヨリ船出セントノ
風説アリ支那ニ到リ北京ヲ巡覽シ日本ニ到リ
テ二三個月ハ滯留スベシトノ事ナレハ定メテ
東京ヲモ巡覽スベシ此人當年既ニ七十歳翼々
毎小新聞 一六 七

トシテ猶壯年ノ如シト凡ソ此度ノ旅行ニハ日
本支那ヲ歴遊セル後暫時印度ニ足ヲ留メ模様
ニヨリテハ全世界ヲモ周遊セルトノ意アルヨ
シ真ニ壯志ナリト謂ツヘシ又其姪ナル人ハ曩
ニ支那ニ在リテ十年間合衆國ノコンシユル、ゼチ
ラールノ任ヲ勤メタル人ナルカ今度支那マテ
同道セルヨシナリ

此新聞ヲ譯セシ比ハヤ此人東京ニ來レル由
ナレ氏旧稿ヲ改スシテ之ヲ剖刷ニ付セリ

桑方西斯哥每週刊行新聞第二十九號ヨリ
抄譯ス

第八月二十二日我七月廿六日紐育子ウヨルクヨリ本月八日サン
レアゴデキユバヨリノ書ニバルマサダ一千人ヲ
率ヒテバヤマスタ去リ當地ヘ到着セリ其道路
ニテ古キユバ巴人ニ襲撃セラレ死傷五百人ニ及ベリ
ト其中ニカメロンデメーギール及ビ其他ノ士
官等有リ其輜重大砲及ビ黄金六千ドルラルヲ
奪ハレタリ

近頃コロ子ルアンパヂヤバドラ子ヲノ將ヒタル
西班牙ノ軍兵マンソンウ井ルヨリバヨマニ冒
進セントセシニアンパチヤハ六時ノ間劇戦シ
テ遂ニ路ヲ開キ通リシカドモバドラ子ヲハ兵
八百人兵糧輜重十四輛ヲ失ヒ追返サレタリ此
時ノ傷人ヲ載セタル車十八輛マンソンウ井ルヲ
歸リ来レリ
合衆國ノ民ヨリ出シタル第二次ノ出兵ノ総督
コロ子ルレウイスナル者ゼヲーレジボプトンノ船

ニテ上陸セシガ西班牙人ニ殺サレ其麾下ノ囚
虜殺戮セラル、者甚多シ
古巴ノ將マジヨルゼ子ラールドーチマルマルハ
找幹アル者ナリシガ脳疫ヲ病ミテ第七月二十
六日ニサンシヤゴ近傍ニテ死シタリゼ子ラール
モステヂチアス之レニ代レリ
發黃熱及ヒコレヲ病西班牙ノ軍中ニ流行シ之
ニ染テ軍事ニ勝ヘサル者今サンシヤゴニ在リ
二週前ヨリ病人傷人及ヒ暇ヲ得タル士卒サニ

シアゴヨリ當地ニ来ルヲ幾ニト三千人ニ及ベ
リ叛黨水道ヲ断切タルニ因テ當府ニテモ水乏
レタ甚タ難澁セリト

横濱毎週刊行新聞第三十七號ヨリ抄譯ス

天津暴殺一件

コオントロシシユーワルド氏ヨリ支那政府へ
役人ノ罪アルヲ明ニ論辨シタル書付ヲ差出
シタリ

九月十五日我八月廿日チアイナメイル新聞紙ノ便リ

ニ左ノ説ヲ載セタリ公使ヨリ手切レノ挨拶ヲ今
月七日マテ猶豫セル由

ヨングチュウニ居リシ宣教使等又モヤ支那人ノ

暴殺ニ遭ハン^トヲ恐レ其眷屬ヲ引連レ軍艦ニ
 乘リテ芝罘迄逃レタリ天津ニハ七隻ノ軍艦滯
 泊セリ又支那ノ方ニハセエン、グ、フアン^{支那官名}
 ノ命ニテ外國人守護ノ為ニ天津北京ノ間ニ兵
 ヲ集メタリ然レモ其本意ハ何ノ為ナルヤ甚疑
 トナリ本月九日^{我八月十四日}ニハ英佛ノ公使天津ニ
 趣ケル由
 鎮臺ト恭親王ト攘夷黨ノ為ニ殺サレタリシト
 此鎮臺ハ暴殺一件ノ事ヲ吟味スル掛リニテ恭

親王ハ開港黨ノ頭ナル由ナリ

上海ク^{新聞}リールノ便ニ天津ノ事件ハ北京ニ
 テ穩便ニ濟ムナル可シ其故ハコオント、ロシ^シ
 ワルド氏手切ノ日限既ニ過ギタルニ尚北京ニ
 留ケレハナリト但シ支那ヨリ佛へ如何ナル取
 極ヲ以テ事濟ニナレルヤ未タ詳ナラザレモ六
 月二十一日天津ニテ刑ニ行ハレタル者ノ中ニ
 チエ^{チエ}フ^フー^フチ^チエ^エン^ンノ名アリテチエ^チン^ンコ^コー^ー、シウ^シウ^ウイ^イノ
 名ハ無リシトナリ

横濱刊行シマツパン、ヘラルト新聞ヨリ抄譯

ス

マスサキセツツノウーストルスクールノ學校ニ入
學セル日本人井上某第一等ニ登リタル由ニユ、
イングラントノ子供ノ親達ハ定メテ妬マシク
思フナル可シ

海外新聞十六號畢

海外新聞十七号

千八百七十年第十月八日 我八月十四日横濱刊行

ジヤッパンメイル新聞及ヒジヤッパンヘラル

ト新聞ヨリ抄譯ス

佛ノ飛脚船到着ニ付歐洲最近形勢ノ報知ヲ
得ルノ左ノ如シ

九月三日 我八月 倫敦ヨリ 訛利時ノ領内ニテ佛

兵二千入降参シタリ

同月四日 我八月 巴勒ヨリ 昨土曜日夜半俄ニ議

海外新聞

十七

院ノ集會アリコオントパリコオ氏帝ノ囚虜ト
ナリタル事并ニ大将マクマホンカ敗レヲ取リ
シテヲ衆人ニ告知ラセ執政等ヲシテ最良ノ所
置ヲ熟考セシメンガ為ニ翌午時迄議院ノ會議
ヲ繼續ス可キヲ求メタリ時ニジュールファブル
氏進出テ凡ノ今般ノ敗衄ヲ以テ皇帝皇族共ニ
國法ニ因リ任ゼラレタル權ヲ失ヘル上ハ新々
ニ政躰ヲ立直シトロシユル氏ヲ是迄ノ如ク巴勒
ノ鎮臺トシテ少シモ早ク外寇ヲ追攘フノ計策

コソアリタケレト言ヒケレバ坐中ヒソマリカ
ヘリテ其説ニ從ヘリ

同月同日我八月九日夕巴勒ヨリ今午後一字議院ノ

官負再ヒ集會シコオントパコオ氏參議官ノ草
シタル一紙ノ議案ヲ出ス其中ニ議員ノ衆説ニ
隨ヒ政府ノ五官ニ任スル人ヲ撰擧スヘキ旨ト
パリコオヲリウテナントゼ子ラールニ推立テ
ントノ旨トヲ題セリ其時ニジュールファブル氏昨
日申出シタル一ハ如何ニ先ツ其事ヨリ評決ニ

及ヒタシト言フ又チエール氏ハ先ツ差當リ國
政ヲ取扱ヒ并ニ外寇ヲ防クカ為メ委任ノ官負
ヲ推立テ國法ヲ改ル會議ノ事ハ追テ時宜ニ因
リテ致スベシト言フ諸議院ニテ此數說ヲ評議
スベキヲ決シタリシガ終ニ其會議ヲ為ス
不能ハザルトハナレリ其故ハ此時迄議院ノ
外ニ夥多人羣集シテ皆一同共和政治ト為
ト騷立テ帝位ヲ廢シ共和政治萬歲ト大聲ニ唱
出シタリシガ衛兵常備兵等平民ト同意シ一度

ニ咄ト議院ニ押入り大騷トナリ何分ニモ會議
ヲ為スヲ得サルニ至リシナリ其時ガムベダ
氏ヲ初トシテ共和政治ヲ主張スル議負等仏ノ
帝位ハ最早是迄ナリト衆ニ布告シ夫ヨリ直ニ
町奉行所ニ至リ此所ニテ假ニ政府ヲ設クル由
ヲ布告ス諸此政府ヲ維持スル人々ハガムベダ
氏フーリイ氏シモン氏ジュール氏アラノ氏
パージュ氏クレミュー氏ケラトリイ氏ロシュアオー
ル氏シモンベルタン氏ピカルド氏グレウー氏等

ナリ又大將トロシユ一氏ハ尚巴勒ノ鎮臺タリ巴勒ニテハ人心洶々トシテ鼎ノ沸クカ如シサレ氏市中ニハ別ニ乱妨狼藉ノ始末等アルヲ無シ○仏國ノ人一同テ普兵ヲ退卻セント固ク決心セ

九月五日我八月十日巴勒ノ官報ニ仏ニテハ共和政治ノ布令アリ議院ノ官負ヲ退散セシメ元老ノ職ヲ廢シ國中ニ大赦ヲ行ヒ新々ニ政府ノ官負ヲ撰ニ大將トロシユ一ハ國政ノ總裁ヲ任セラレ

且護國ノ兵權ヲ握リシユール、ワッブルハ外國事務宰相カムベタハ内國事務宰相ル、フローハ陸軍事務宰相フルニシヨンハ海軍事務宰相クレシユ一ハ裁廳事務宰相ピカルドハ會計事務宰相ジユールシモンハ學校事務宰相ドリアンハ造営事務宰相マクニエ一ハ貿易事務宰相ナリ
 參議官長官ノ撰任ハ全ク止ミタリ○エトランヌドラゴ一ハ巴勒ノ町奉行ニ任セラレドケラトリイハ巡察長宰ニ任セラレ

佛ノ布令ニ凡ソ今般國ノ政躰ヲ變シテ共和政
治ト為セルモノハ千七百九十二年ニ共和政治
トナリタル時國內ニ侵入セル敵ニ打勝テタル
吉例ニ倣ヒシトナレハ今日モ其如ク苟モ佛國
ノ人ト呼レン者ハ戮カシテ外寇ヲ追攘シ國辱
ヲ雪ガシテ思フ可シトナリ因テ國內製造交
易及ヒ兵器ヲ賣ル等ノ事ニ至ル迄尽ク故障ナ
ク自由ニス可シト許シタリ○ロシヤナル初
巴勒ヨリ撰舉シタル議負ハ外寇ヲ防ク可キ計

策ヲ為ス掛リトナリ大將トロシヨリ其長官ニ
推立テタリ○巴勒ニ於テハ衆ノ心大ニ安堵セ
リ○共和政治ノ布令ハリオンボルドーグレノ
ブル其外大都會ニ於テ皆之ヲ行ヘリ

同月同日我八月倫敦ヨリ普國ニテハ王カスセ
川普國ノ近傍ウエズムストーニ佛ノ先帝拿破崙
ガ居所ヲ定タリ○メッツノ城降レリト云ヘル説
アリ

同月同日我八月巴勒ヨリ巴勒ハ今ニ全ク平穩

ナリ○共和政治ノ布令尚國中ニ傳達ス○皇后
エウジーン氏太子ト共ニ比利時ニ逃ル皇女ク
ロゲルドハ^{スウェーデン}瑞士ニ行キタリト○前ニマクマホ
ンノ死セント云ヘルハ訛傳ニテ手疵モ次第ニ
愈ユ可キ由

巴勒ノ各党ノ新聞紙ニ皆此際ニ當テハ先ツ假
ノ政府ヲ助ク可キヲ記シタリ○國中ノ人皆
憤勵シテ普人國內ニ居ル間ハ和ヲ講センヲ
説ク可カラス固ヨリ地ヲ割ント言フ者アレハ

尽ク怒テ之ヲ拒メル由

普ノ斥候昨日フェイスメニ到着ス○佛ノウイア
子イ隊ノ歩兵無事ニラオンマテ引退クヲ得
タリ○普兵ハ仏ニ入ラントテミュルウズノ近傍
ヨリ已ニ^イ漢泥河ヲ涉レリ

同月同日^ハ八月^ハ倫敦ヨリタイムス^ハ新聞紙ノ別

段ノ報告者ヨリ傳信線ヲ以テ言送レルニ普王
コ^ントビスマルクト共ニ普王及ヒサキソニ
川ノ兵ヲ率ヒテ今朝巴勒ニ進ミタリ

佛ノ生口九万人普國ニ送ラレタリ○皇后エウ
ジーン比利時ニ着ス太子ハ尚ナミウルニ在リ
同月六日我八月十一日倫敦ヨリ伯バートンノ官報ニ佛ノ生
口ノ中大將タル者五十人アル由○普兵ハ尚モ
巴勒ヲ指シテ進ミ行ケリ
馬德里ノ報告ニ西班牙ニテハ佛ノ事件ヨリ大
ニ軍兵ヲ増シタル由○西班牙ノ共和政治黨ノ
名代人等巴勒ノ假リ政府へ電信機ヲモツテ賀
詞ヲ呈シ且ツ其中ニ國法中ニ載セタル西班牙

ノ立君政府ヲ建ルノ條ヲ刪リ去ラニテ論セ
リ
同月同日我八月十一日巴勒ヨリ普軍急ニ巴勒ニ迫ラ
ントス○仏ニテハ今日ヨリ初メテ官ニ任ズル
時ノ誓言并ニ印紙ヲ廢シ先帝ノ英英嶼魯等ノ國
々ニ遣シ置タル公使ヲ罷ムルノ令ヲ出セリ
皇女マチルドハチエツプノ近辺ニテ捕ヘラレタ
ル由
印度ト歐羅巴トノ間ノ傳信線ニテ同月七日我
八

月十日倫敦ヨリ達ス^{オレアン}荷里安^先仙王家筋家ノ一族巴勒
ニ行キ軍役ニ加ハラントス○佛ノ太子ハスチ
ニク^英地ニ到着セリ○普ノ政府ニテハ仙ノ拔駈
ノ兵等隊伍ヲ整ヘテ来ルニ非サレハ賊徒ノ如
クニ取扱ハント布令セリ○コロ子ルペムベル
トニセタンノ城前ニテ戦死シタリ○英ノ國債
手形ノ價九十二ニ下落セリ
同月同日^我俄二月巴勒ヨリ普ノ前軍尚ヲオント
エペル子イ、近辺ニ在リ○普ノ斥候エズルテ

スーヅユアルニ到ル○ウイア子イ隊ハ無事ニ
巴勒ニ著セリ○大将マクマホン卒ス○仙ノ外
國事務宰相^{ジュール}ファール^{ブル}氏ヨリ各國ニ在
留スル公使へ出セル書狀ノ中ニ當政府ノ役人
即共和^等曩^今般ノ戦争其謂レナキ由ヲ始終
論弁セシ^並ニ普王ノ方ヨリハ今般ノ軍ハ拿
破崙ノ朝ヲ撃ツ為メニ興セルニテ仙人ヲ撃ン
趣意ニ非ズト布令セルヲ載セ^然レハ斯ク政
躰ヲ變革シテモ尚普國ニテハ戦ヲ休メザルヤ

毎小新聞

休ガルニ於テハ如何ナル謂レアリヤ承リ度趣
ヲ記シ且仏ニテハ固ヨリ和ヲ好トモ若尚戦ヲ
為續ントナラバ敢テ辭セサル所ナリ一步モ退
カズ窮迫堪ヘ難キノ時ニ至ルマデ巴勒ヲ防禦
セントナリ

同月八日我八月十三日倫敦ヨリメッハ今尚敵ヲ防ケ
ル由○普軍モンメイヲ嚴テ砲發セシニ仏
軍ノ為ニ退卻ケラレタリ此戦ニ府下半バ破壊
セラレ由○普王月曜日ニレイムニ入ル○此

利時ノ警察兵國境ヲ退キタリ○伯靈ノ官報ニ
仏ノ政体變革シタルヲ以テ外國ヨリ勸解ノ事
ヲ為スマジト云フ

同月九日我八月十四日倫敦ヨリ倫敦ニテ出板セル新
聞スタンダールドノ外ハ皆仏ノジュール、フアール
氏が各國ニ在留セル公使等ニ出セル書状ノ中
ニ却テ普人ノ怒ヲ惹キ起スベキ文面アルヲ
非難セリ○ウイクトルヒュゴ氏巴勒ニテ厚ク接待
セラレタリ○ストラスブールノ將ヨリ軍礼ヲ

缺ク事無ランニハ城ヲ明渡サント言遣リシニ
普人之ヲ肯ゼス再ビ砲戦ニ及ヒダリ
同月同日我八月十四日巴勒ヨリ仏ニテハ千八百四十
九年ノ法ニ從テ國法ヲ立ルガ為メニ七百五十
人ノ議負ヲ撰ブベキヲ以テ每州ノ議負撰舉人
等ニ來ル第十月十六日我九月廿二日ニ集會スベキ由
ヲ布令セリ○普軍ハ三隊ニ分レテ巴勒ニ進メ
リ○普軍巴勒ヲ圍ムニ至ラハ各國公使多分去リテ
ツールノ方ニ行クヘシ又仏ノ政府ヨリモツリ

ルノ方ニ其目代ヲ遣スヘシ○兩國ニ解和ヲ勸
ムル議論ノ最中ナルガ佛人ハ地ヲ割キ與フベ
キノ意無レハ此議調フヤ如何覺束ナシ
同月十日我八月十五日倫敦ヨリ普軍ウイトリヲ過ク
其傍近ノ村落ニ兵卒ノ餉糧ヲ給スヘキヲ求
メタリ募兵ハ到所相成ラスト禁シタリ
普軍五路ヨリ別レテ巴勒ニ進ム其外二隊ノ兵
ハ巴勒ヨリナリグノ所ニテ會合スヘキ由ヲ
命セラレ

普ノ官報ニセダンニテ擒ニスル所ノ佛兵八万
七千人其中士官四千人アリ又分捕ニハ大砲五
百五十門ミトライユウズ砲七十門馬一万頭其
他雜貨数知レス

同月十一日我八月十六日巴勒ヨリ昨日左ノ官報アリ

普兵ハ追々クレスピイトコムピエースニ近寄
リシガ昨日モンミライルニ到着シタレハ今夕
ハクローロミエルニ到ルヘシ其軍律至テ嚴シキ
由〇所々ノ囲マレタル都府尚降ラスシテ防禦

セリ〇局外中立國ヨリ尚頻ニ暫時休戦ヲ勸ム
ルノ議アリ〇巴勒ニテハ十分支度シテ防禦セ
ント決定セリ〇巴勒ノ敵兵ニ囲マル、間ハセ
イ又州ノ政府ヲツールニ移スヘシト

同月十二日我八月十七日巴勒ヨリモリメリユンノ地ニ

テハ昨夜普兵侵入スヘシト待掛タリ〇一昨日
英國ヨリ普王ノ許ヘ局外中立ノ國々ノ名目ニ
テ休戦ヲ勸ムルノ書状ヲ送レリ〇巴勒ノ政府
ノ目代及ヒ各國公使等ノ本府ヨリツールニ避

ルハ暫時見合セニナリタリ

同月同日我八月十七日倫敦ヨリ以太利王其兵ニ羅馬

法王ノ領内ニ入ルヲ命セリト云ル官報アリ

○米政府ヨリ若シ兩國ヨリ請フアアハ好シ

テ講和ノ議ニ預リ周旋スヘシト言ヒ送レル由

同月十三日我八月十八日倫敦ヨリ巴勒ニテハ人々皆

局外中立國ノ周旋ニテ休戦ノ議調フヘシト思

ヘリサレハ外國公使等ノツールニ出立スルヲ

モ暫ク見合セニナリタリ○疴里安一族ハ反政

府ノ願ニヨリ巴勒ヲ去リタリ○佛皇后エウジ

ン氏ハスチングニ到着セリ

同月同日我八月十八日同府ヨリ普王ヨリ電信機ノ報

告ニラオンノ城降参セルヲモテ我兵其内ニ入

リシニ城中忽然ト地雷火噴發シ我兵九十五人

佛ノ降兵三百人之ガ為メニ死傷セリ是定メテ

敵ノ間諜兵ノ所為ナルヘシト○巴勒ノ官報ニ

ツウルノ番兵日曜日ニ普兵ノ襲撃セルモノヲ

追返セリ此時敵ノ死傷甚タ多シト○ロアツソ

シ城ノ大將其城ヲ明渡ス_ト肯_ンセス○羅馬
法王其領内ニ以太利ノ兵ノ入り来ル_ト拒_ミ
タリ尤モ自國ノ兵ニハ強テ之ヲ禦ク可カラス
ト命シタル由

十六號天津暴殺ノ條ニ佛ノ弘法使ト記スベ
カリシヲ宣教使ト記セシハ全ク一時ノ偶誤
ニ出タルナリ

海外新聞十七号畢

海外新聞十八號

千八百七十年^イ萊^ス方^ラ西^ス斯^ラ哥^ス每週刊行新聞第
三十号ヨリ抄譯ス

第八月廿五日^我七月廿九日^我倫敦ヨリノ報告ニ普ノ王

族フエリッスサルムハ嘗テ米利堅^墨西^ゴノ戦争ニ
軍功アリシ者ナリシガ今度普軍衛兵ノ裨將ニ
テ本月十八日^我七月廿二日^我クラブロットノ戦ニ戦死シ
タリ

同月同日^我七月廿九日^我巴勒ヨリ昨日ゼ子テールト口

シユ一守衛兵ノ勢揃ヒヲ為セシガ其隊列甚々壯
觀ナリシ

セイ_ン河及ヒマルン_ン河辺ノ水碓ヲ自燒シ其所
ニ在リシ諸品ノ搬運シ難キ分ハ尽ク之ヲ燒キ
タリ

第八月廿六日我七月三十日巴勒ヨリ巴勒内ニ四十日
ヲ支ユ可キ麥粉アルヤ否ヲ知ラン為メニ昨日
官ヨリ此都ノ麴包舖中ヲ檢査シタリ
昨日佛ノ土兵等搗ヲマルン_ン河ニ架シタリ此橋

ハ若シ敵近寄りナハ復破壞ス可シトナリ

第八月廿九日我八月三日巴勒ヨリ佛ニ於テハブラ

ン_ン君ヨリ巴勒ノ都人ニ諭シテ人々務メテ食
料ヲ用意シテ蓄ヘ置ク可シ且軍事ニ堪ヘサル
者ハ皆早々當府ヲ去リタル方然ル可キ由トヲ
云ヘリ

巴勒廓外近傍ニ住メル人々多クハ皆其家屋ヲ
自ラ毀壞シテ府中ニ移リ入タリ普軍ノ斥候隊
ハヤ見ユル程ニナリタリ

蒸氣車場ハ其忙劇殊ニ甚ク荷物家財等ヲ夥シク積送り積来リ一羣ノ人去レハ一羣ノ人来ルヲアリテ數車陸續断ヘス其混雜云フ可カラス佛ノコロ子ルタリセト斥候ニ出テ、普ノユラ普ノ騎兵百五十人ヲ襲ヒ尽ク之ヲ擒ニシタリトノ説アリ此偉功ニ依テゼ子ラールニ登擧セラル可シトナリハブルノ府人書ヲゼ子ラールトロシニ贈リテ義勇兵ヲ送ランヲ約セリ

佛ノゼ子ラールフェーリハニヤロニヲ退去ノ時大砲百挺ヲ誤テ其所ニ遺レ去レリ此砲若シ敵ノ手ニ入ラハ危カリシニコロントパリコオ軍兵ヲ引拂ノ後ニ陣所ヲ見廻リテ此大砲ヲ檢出シ早々之ヲ運ヒ去ラシメタリフェーリハ此罪ニ依テ其賊ヲ禡ハレタリト云フ

千八百七十年第九月二十九日我九月五日横濱

刊行 ジャツパンヘラルド 新聞ヨリ抄譯ス

佛普戦争ノ原由

此度ノ佛普兩國ノ戦争ヲ以テ古来云ヘル所ノ
大事ノ起ル可キ原因ト其機會トノ差別アリト
ノ説ヲ徵スルニ足レリ夫普王ノ近親ホーヘン
ソルレルン侯ノ西班牙國ノ王位ニ昇ルト昇ラ
サルトノ事件ニ因テ斯ク戦争ニ及フトノ論説
ハ方今既ニ衆人ノ忘却シタル所ニシテ此論端

ハ全ク其戦争ニ関涉無キガ如クナレリ又佛普
双方ニ於テ互ニ唱フル所ノ戦ノ原由ハ其实ハ
真ノ原由ニハ非スト云ヘルトハ人皆通知スル
所タルモ今又其概畧ヲ揭示セン普ノ伯_バ誤ニ在
留スル佛ノ公使ベ子_シテチノ普王ウ_ウイルレムヲ途
上ニテ抑留シタル故斯ク戦争ニ及タルニモア
ラス又其時普王ニハ已レノ面前ニ在ル公使ニ應
答無ク身ヲ背ケテ已レノ侍臣ニ應答ノ旨ヲ命シ
タル故ヲ以テ戦争ニ及ヒタルニモアラス又拿

破_ハ崙_ノ自己ノ隠謀ヲ達セントニハ和親ヨリ寧ロ
交戦ヲ以テ利トスルカ故ニ兩國ノ戦争ニ及ヒ
タルニモアラス又普國ノ執政ビスマルク南方
日耳曼國ノ人民ノ普國ニ義心ヲ励マサルヲ憂
ヒ之ヲ奮發セシメントシ又日耳曼同盟國ノ積
金ヲ大ニ集メントノ口実ヲ得ンカ為メニ戦争
ニ及ヒタルニモ非ラス畢竟是等ノ事ハ唯戦争始
ントスルノ時日ヲ確知スルニ聊カ関係アルノ
ミナリ蓋シ拿破崙身体健康ニシテ且軍備充足

セハ二個年前ニ此争端ヲ開ケルナル可シ若又
北方日耳曼會盟國ノ諸事戦争ヲ始ルノ機會猶
至ラサル時ハビスマルクヲ拿破崙ヲシテ方今争
端ヲ起サシメサルトニ豈ニ注意セザルト有シ
ヤ然レハ前件ノ如キハ唯戦争ヲ始ルノ時日ニ
ノミ關係シ必シモ戦争ノ由テ起ル根柢ニアラ
ス後來ノ歴史家ヲシテ此戦争起リタルハ千八
百七十年ニ在リトノトヲ詳明ニ確知スル一助
ト為ルノミニシテ此戦争何故ニ起リタルヤト

ノ疑ヲ解クニ足ラシ加之前件ノ如キハ佛都巴
勒ニ於テモ又普都伯灵ニ於テモ其國民舉テ起
セシ衆望帰スル所ノ戦争ナル旨ヲ説明スルノ
一證ヲモ為ス能ハサルナリ抑古今ノ戦争ヲ概
見スルニ縱令其レニ與ミシ戦フト雖モ人民唯
苦難ヲ受ルノミニシテ聊自己ノ利益ヲ獲ル
無^ク唯王室王家ノ欲ニ依リ軍ヲ起シ其兵卒ヲ殺
傷シ金貨ヲ費スノ戦居多ナリトス然ルニ此度
ノ佛普兩國間ノ戦争ノ如キハ是等ノ戦争大ニ

異ナルニ似タリ余カ輩記者自若シ妄説ノ為メ
ニ欺カルヤハ知ラスト雖モ此度佛普双方ノ
戦争ハ國民舉テ奮発勉勵シテ為セル所ノ戦争
ナル可ト思ヘリ又前ニ佛方ニ於テチエールノ
説ニ同意シ方今ノ機會ハ兵端ヲ開クニ甚タ不
良ナルトノ事ヲ主張シタル者数人アリ又普ノ
方ニ於テモ日耳曼國後來ノ繁榮ヲ計ルニ普國
ノ助ケヲ假ラス他ノ助ケヲ仰ンテ欲シ或ハ
當今ノ普王ノ一族ニ依ラバ他ノ王族ニ依リテ

其繁榮ヲ得シコトヲ欲スル者数人アリタルナ
ラン然レドモ此數人ノ者ハ戦争既ニ始ル時ニ及
テハ必ズ其説ヲ主張スルヲ能ハスレテ國民舉
テ起セル戦争ノ事實ヲ變改スルヲ能ハザルベキ
トリ元來此戦争必ズ起ル可キハ既ニ四個年
前ヨリ仏人及ビ日人ニ於テハ皆先知スル所ニ
シテ又普國ノ政務ヲ掌レル者等ハ仏國ト此戰
争起ル可キハ普國ヨリ奧地利國ニ兵ヲ出シ
テ優劣ヲ試ミシ時既ニ推察セシメタルベシ又

毎小折用

ハタ親國
一、
仏國ノ政務ニ參スル者ニ於テモ、壤地利國ノ普
國ニ敗ラレタル時、爾後普國ト此戦争必ズ起ル
可キヲ諒知シタルナラン夫レ今仏人ニ於テハ
其國土ヲ大ニ拓ント欲スルノ心無シト云ヘル
トハ其偽ニ非ルト固ヨリ疑フ可キニ非ズ蓋
レ仏ニテ大捷ヲ奏スルトアラバ其後ニ於テ其
初志ノ幾時間ヲ有ツベキヤ否ヤ預メ知ル可ラ
スト雖モ戦争ヲ起ス時ノ心中ヲ考察セバ仏人
ノ言ハ全ク切實ニシテ偽無キニ似リ其故ハ此

度ノ戦争ハ仏國ニテハ欲心ヨリ起セルニ非ラ
ス多クハ其恐怖ヨリ起セルモノニシテ其仏國
ノ真意ヲ察スルニ自國ノ境界ヲ廣メントノ希
望ヨリ寧ロ普國ノ盛大トナルヲ妨害セントノ
著目ニテ斯ク戦争ニ及ベル者トス被仏國ニハ
歐羅巴ニ於テ普國ノ俄カニ自國ト齊シキ威權
ヲ得又殆ト自國ノ右ニ出ントスルノ景狀アル
トヲ目撃シタルハナリ又日耳曼國ノ如キハ元
來混亂ノ國ニシテ兵カノ以テ他國ヲ憎服セシ

ムルニ是ラス計略ノ以テ他國ヲ驚悸セシムル
ニ足ラス固ヨリ一定ノ國論無キモ、ナリシカ
已ニ普國ノ制取ヲ受テヨリ以來其勢俄ニ強大
ニ赴キ以前列國會盟ノ頃ハ衰弱ノ徵分明ニシ
テ強勢ノ基礎毫モ之無ク加之其列國互ニ相惡
ニ以テ權利モ互ニ相抵觸シタリシ國ナルモ方
今ハメイン河ノ北ニ在ル日耳曼ノ數國ハ專ラ
普國ノ指麾号令ヲ遵守シ又此河ノ境外ノ諸國
モ普ノ法ニ苟モ違犯スベカラサル勢トナリテ

皆普國ニ服従スルノ景狀アリ斯ク普國ニ於イ
テハ日耳曼ヲ合併シ其勢ヲ紛一ニ歸シ其カラ
盛大ニシタルヲ以テ仏ニテハ之ヲ忌ミ遂ニ此
度ノ戦ヲ起セルナルベシ故ニ又奧地利國ニ於
テ日耳曼國ノカラ合併スルヲ有ラハ仏ニテハ
必ス此國トモ等ク戦ヲ為スナラン然ルニ近頃
普國ニ於テ企望セル所ハ他國ヲ怒ラシメ他國
ヲ侵サントスルノ模様ナキニシモ非ス是ヲ以
テカ更ニ至便ノ法ヲ用ヒ日耳曼國ヲ連合セン

トスル者ノ望ヲ破リテ遂ニ普國ノ目的ヲ達シ
タリトテ仏人ハ偏ニ其強暴貪欲ヲ忌ムトノ事
ヲ專ラ陳述セリサレト仏ニ於テ故障ヲ述ル所
ハ普國ノ日耳曼列國ヲ連合シタル方法ヲ云フ
ニハアラス全ク其連合シタル趣意ヲ云フニ在
リ若シ日耳曼國內ニテ兵ヲ動シ大砲轟鳴スル
等ノ事無ク無事ニ斯ク連合ニ及ヒタリトモ仏
人ノ意ニテハ尚之ヲ痛心シテ此变革ヲ凶惡ノ
前地トシ如此ノ变革アル時ハ仏國之ト共ニ存

スルヲ能ハジト思フナル可ク特ニ仏人ハ日耳
曼ノ廣大ナル強國トナルヲアラバ仏ト日トノ
兩國共ニ歐邏巴洲中ニ並ヒ立ツヲ得サルベ
シトセシ抑仏人ハ往ニ自國ノ四分五裂トナリ
シヲ其人種ト言語トニ隨ヒ皆連合シテ一大國
ト為シ其國ノ為ニ巨多ノ利益ヲ生シタルヲヨ
リ推度シ日耳曼モ亦如此シテ一大國トナル時
ハ其勢益盛大ニ赴キテ仏ノ為ニ害ヲ生スルヲ
有ル可シ下思ヘルヨリ又一層ノ恐怖心ヲ増シ

タリ殊ニ萊^{ライ}泥河ノ左岸ノ地ハ元ト日耳曼國ノ
管轄タリシヲ今^イ仙ノ所有ト為セシカドモ後來
仙ノ敗^イ斂スル^イアルニ於テハ其地再ヒ日耳曼
ニ奪還サル^イアル可キノ恐レアリ若シ又仙
人は等ノ事ノ謂レナシトシテ恐レガルベキモ
其他ニ直ニ恐怖ス可キ^イアルベシ或ハ又仙人
連合シタル日耳曼國ノ為ニ土地ヲ掠奪セラレ
、^イハ未タ信スベカラストモ仙國ニハ必ス日
耳曼ノ為ニ自國ノ威權ト國位トヲ失スベキ

ノ患アレバ從前自負シテ且物事ニ感動シ易キ
仙人ノ為ニハ大ナル障碍ト為スベシ蓋シ是マ
テ仙人ニ於テハ改^イ邏巴ノ論議ヲ裁定スル^イヲ
以テ自負シ又改^イ洲各國ノ間ニ故障起ル時ハ必
ス先其國へ第一ニ其相^イ談ヲ受ル^イヲ以テ得意ト
シタリンガ普國^イ壤地利國ヲサドワニ敗リタル
以後ハ仙國此自負ヲ為ス^イ能ハサルニ至レリ
斯ク自國ノ為ニ既ニ其害ヲ加^イハシ普國ナレハ
之ニ對シテ仇敵タルノ意ヲ生スル^イヤ必スベキ

ナリ余等英國ニ在リテ其事情ヲ傍觀スルニ
人ニハ深ク之ヲ慨歎シ尔後普ニ對シテノ處置
始終皆之ニ基クテヲ察知ス思フニ日耳曼國ノ
強大トナル時ハ必ス仙ノ勢ニ妨害トナルベキ
ヲ以テ仙人其憤激ノ余リ即チ現今ノ戰爭ニ及
ヒタルナリ加之仙帝ノ國ヲ治ルニ百事掣肘ス
ルト多キト其獨裁ノ政權ヲ容易ク其子ニ讓ル
ト能ハザルヲ洞見シタルトノ兩事ヨリ此度ノ
戰爭ノ期ヲ促セシガ何ゾ圖ラシ是レ仙國ノ不幸

ヲ速ニ招クニ至ラントハ豈ニ歎ス可キニ非スヤ

横濱新聞ウイークリイメイルニ我邦人ノ開
 化ヲ進ルニ新聞紙ノ缺クベカラサル由ヲ
 記載セルカ其言實ニ確切ナレバ之ヲ抄譯
 シテ卷末ニ附セリ

抑、近日迄ハ日本人海外ノ事情ニ關係セサリシ
 カ當今ハ貴賤ト無ク總テ其事情ヲ知ラントノ
 意ヲ生セシヨリ西洋板ノ地理書如何ニ不用ナ
 ルモノ或ハ旧刻ニ係ルモノモ其元價ノ五倍ニ
 テ賣レタリ又外國ノ政治風俗等ヲ詳載セリト

海夕新聞 十八
ノ日本板ノ書ハ既ニ有名ノ書林ノ目錄ニ列リ
又續々トシテ新ニ開板スルモノ多シ然ルニ是
等ノ書ハ大抵未熟書生ノ著セルニテ畢竟西洋
ノ事情ヲ記セル書ヲ購ヒ得ント競ヘル者夥シ
キヨリ其機ニ投シテ利ヲ獲ント總ニ一二部讀
ミタル西洋地理歴史等ノ書ヲ速ニ繙譯シテ利
ヲ射ルニ過キザルノミ然レトモ其間又是等ノ
書ト大ニ遲延アルモノアリ就中東京ノ開成所
ニテ出版セル海外新聞ノ如キ即其書中ノ巨擘

トスベシ 偕此新聞紙ニ是迄仙普戰爭ノ景状ノ
ミヲ記シタルハ固ヨリ大事件ヲ急ニスル當然
ノ一ナルトモ元來新聞紙刊行ノ趣意ハ此戰爭
ノ一事ノミヲ限ラス又世界各國和平ノ重大事
件ヲモ記シ但シ自國ノ事ヲ記セザルハ遺憾ナ
リ且其事ノ原因顛末ニ至ルマテモ皆記セント
スルニ在レハ是迄記シタル所モ亦其目的ニ全
符スル者トスベシ此新聞既ニ第十四號迄刊行
シ内第一号第二号第三号ハ戰ノ原由交戰國ノ

人口兵数及中立國ノ模様等ニ至ルマテ誤リ
無ク略記シ第四号ヨリ後ノ数号ニハ繼テ戦ノ
事ヲ記シ且兵ノ進退離合ヲシテ一日瞭然タラ
シメンカ為ニ每号ニ地圖ヲ附シ其一ハ彩色シ
其三ハ墨摺ニシタリ又此新聞紙ニハ日本政府
ノ局外中立ノ布令ニ從ヒ些シモ偏頗ノ記事等
無ク只仏ノ意外ニ速敗ヲ招キタルヲ驚歎スル
意ヲ述タルノニ此度ノ歐洲戦鬪速カニ止ミ
テ爾後此新聞紙ニ歐洲人ノ文明開化ニ進ムル

模様ヲ記シ平和ノ記事ニ及ベルトコソ余等ノ
最モ希望スル所ナリ故ニ此新聞紙ヲ著セル人
爾後泰平ノ事業ノ日ニ開明ニ赴ケル有様更ニ
戦争ノ事ヨリモ盛大有用ナルトヲ日本人ニ示
シ是迄ノ如ク勉励シテ陸續新聞ヲ著スアアラ
ハ此國人ノ為メニ開化進歩ノ裨益トナルト多
カルベクシテ國人亦之ヲ賞スベキナリ



普海
所屬之

海外新聞十八号 畢

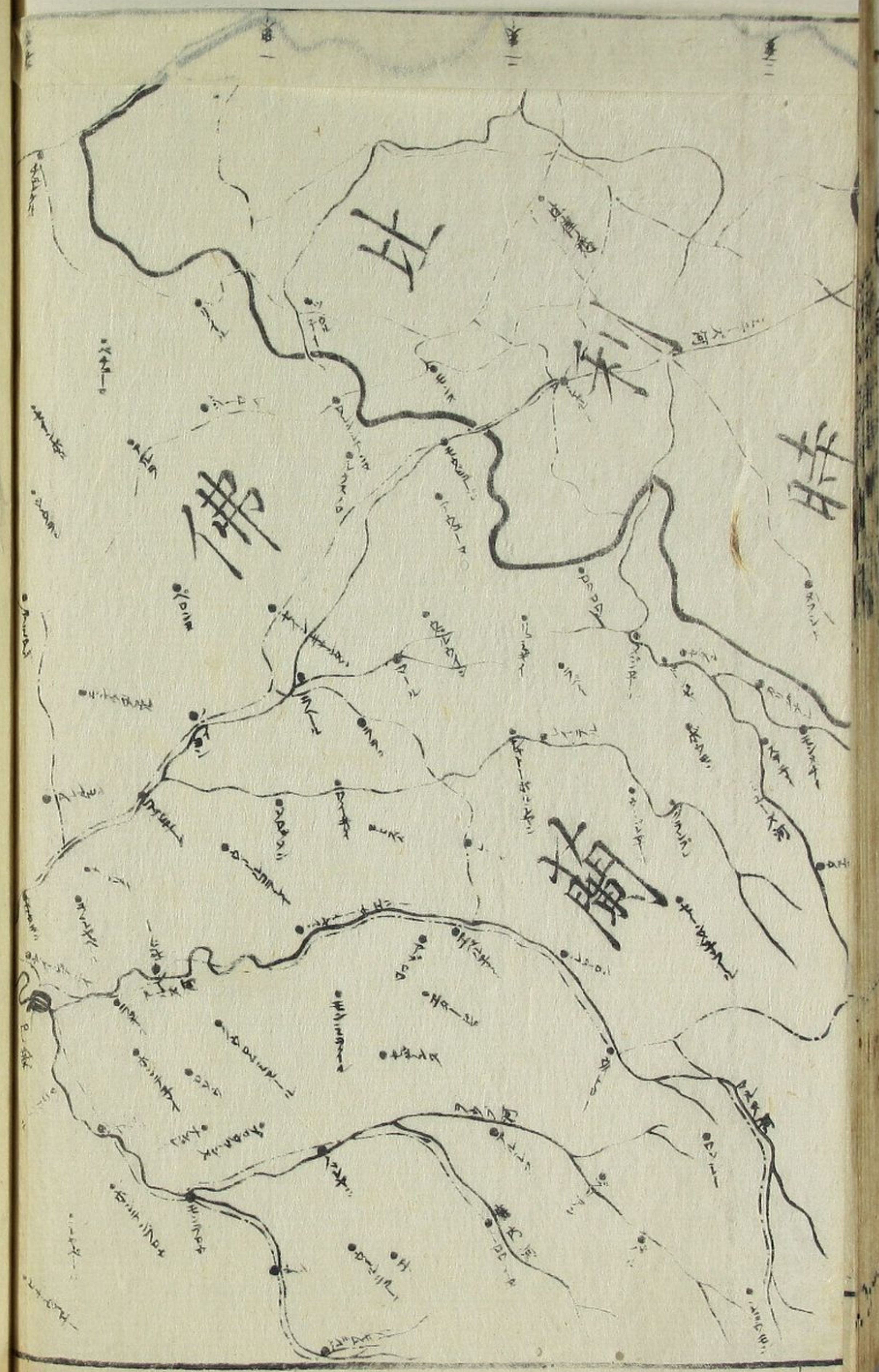
海外新聞

一 映道
 一 國界
 一 普屬之正
 一 所屬之正



海外新聞十九号

千八百七十年第十月十四日
 我九月廿日
 横濱刊
 行ヂヤッパンヘラルド新聞ヨリ抄譯ス



海外新聞十九号

千八百七十年第十月十四日 我九月廿日 横濱刊
 行ヂヤッパンヘラルド新聞ヨリ抄譯ス

佛普戦争ノ報告

第九月十三日 我八月十八日 倫敦ヨリノ新報ニソアソ
 ンスニ在ル砲隊ノ仏將ハ砲臺ヲ敵ニ渡シテ普
 兵ニ降伏スルヲ肯ンゼス

第九月十四日 我八月十九日 ツウルスヨリノ新報ニ昨
 十三日 普兵シヤル子コムピインプロウキンス等ノ

毎ト斤月

三箇所ニ進入セシガ此時仏兵ハコルベイルク
レイル等ノ二箇所ニ架シタル鉄橋ヲ毀テ普兵
ノ進入ヲ妨ケタリ亞國ノ政府ハ今度仏普ノ戦
争ニ就キ我邦人ヨリ解和ノ周旋ヲ為スルヲ禁
シタリ其故ハ普ノ執政ビスマルク解和ノ周旋
人アルヲ好マサレバナリ諸此頃以太利國ノ
兵隊羅馬國ニ侵入シ其都城ヲ距ルヲ僅カー二
里ニ及フト雖モ羅馬法王ニハ遁去ルノ意ナク
自若シテ尚自國ニ在留セリ

佛國ニハ其政府ヲ巴勒ヨリツウルスニ遷ス可
キ旨ヲ普ク國內ニ布告シタリ
仏國ニハ執政クレミウ氏ニ全權ヲ與ヘ之レヲ
事務總裁ニ任シベルガンス及ヒ執政數人ヲ其
人ニ附屬セリ
仏國ノ人民タル者ハ何レモ報國心ヲ抱キ自國
ヲ保護ス可キ旨ヲ布告シタリ
同日倫敦ヨリノ新報ニ仏ノ公使チエールスハ
昨十三日倫敦ニ到着シ即日直ニ英ノ執政イ

ル、ガラン、ウィルニ謁見シ其後イール、ガラン、ウィル
 ハ又直ニ普ノ公使コイントベルンストッフェニ
 對面セシ旨ヲ述テリ
 タイムス新報ニ仏ノ公使チエールスハ今度仏
 普ノ戦争ニ就キ局外中立ノ諸國ニ赴キ解和ノ
 周旋ヲ得テ日耳曼ノ兵隊ヲ仏國ヨリ退カシメ
 ンノヲ乞ヒシレカトモ普王ニ勸メテ其兵ヲ解カ
 シム可キニ是ル程ノ云分ハ更ニ之レ無シトノ
 風評ヲ記載セリ

従前ノ政躰ヲ改革シ自今共和政治ニ為スベキ
 ノ旨ヲ佛國ヨリ各國ニ報告シケレハ合衆國西
 班牙瑞士以利時等ノ諸國ヨリ使者ヲ送り之ヲ
 賀シテ其報告ヲ兼諾シタリ

同月十五日^我八月ツウルスヨリノ新報ニ今度
 佛普ノ戦争ニ就キ休兵ノ評議間々之有リト雖
 モ其決末如何決定セシヤ未ダ知レストナリ
 巴勒ニハ敵兵ノ攻撃ヲ防シ為メ其預備蓋嚴ニ
 シテ佛兵ハ巴勒ノ周圍ニ在ル森林ヲ尽ク焚燒

シタリト

普ノ作候昨十四日午後ノヂャンシルセイニ進
入セレガ佛兵ニ認メラレ其地ヨリ退攘セラレ
タリ

普ノ作候ハ其後又マルモント及ビワングス等
ニ進入シタリ

此頃普兵ハコロアীগアストン及ビアルカス
タム等ニ陣ヲ布キタリ

同月十六日峨八月同為ヨリ左件ノ報告アリ普

ノ前衛隊ハ今朝ジアンウレポントアルホル
ト及ビメルン等ニ到着セリト

仏ノ大都會ハ何レモ皆防戦ノ預備ヲ為シタリ
普王ノ趣意ハ巴勒ノ内ニテ仏國ト解和ノ商議

ヲ為シ且前キニ禁錮シ置キタル拿破崙ヲ再ヒ
帝位ニ復スルヲ等ニ在リテ他ノ趣意ニ非スト
ノ風評アリ

ツツ城ニハ劇烈ノ砲戦既ニ始マリシト
國中ニハ民心舉テ防戦ニ一決シタリ

巴勒ノ近傍ヲ々ニ於テ小戦已ニ始レリ

佛ノ使者左ールス翌十七日我八月象都被得堡イット

ニ赴ンカ為メ既ニ英都倫敦ヲ退去シタリ

方今ノ形勢ニ至リテハ巴勒攻囲ヲ受ケマシト

何様ノ評議ニ及ブレ更ニ其甲斐無ルベントナ

リ

普兵ハ陸續トシテ断ヘズ巴勒ノ方ニ進發セリ

普ノ前衛隊ハ既ニ巴勒ノ東方ニ接近セリ

仏兵ハ大勢昨十六日夜既ニ巴勒城ヲ出テ其郭

内ニ整備シタリ

今十七日ニハ普兵ト接戦ニ及ヘルヲ必セリ

普兵ニハ倫敦ト巴勒トノ間タノ急脚ノ往来ヲ

留メ兩國ノ音信ヲ妨ケタリ

普ノ方ニテ造築シタルストラスブールノ外邊

ヲ洞觀セル第三ノ土堤水曜日ニ於テ全ク成就

シタリ

チールスノ使者トシテ彼得堡ニ赴ケルヲ無益

ニシテ其功無ルベントノ風評アリ

仏國若年ノ貴人普兵ニ加擔シ却テ本國ヲ誹謗
セシ罪ニ依リラドルドン地ニ於テ燒殺セラレ
タリ

方今仏國ノ敗衄ハ日耳曼ニ遺恨アル阿爾蘭

人民ハ之ガ為メニ多ク愁傷シタリト

ハステインノ侯ハ自己ノ負債ヲ盡ク償還セリ

ニールカストル侯ハ自己ノ負債ヲ償還スル能ハ

ズ家室殆ント分散ノ勢ニ至レリ但シ其侯負債

金ノ總計ハ五十万ポンドニ及ベリト

レイムスヨリノ新聞紙ニ執政ビスマルクガ書
翰ノ旨趣ヲ報告セレガ其書中次條ノ一ヲ記シ
タリ今度仏普評議アリテ速ニ解和ニ及グベシ
トノ説ハ全ク無根ノ風説ナリ其故ハ日耳曼國
ノ政府ニ於テ仏國ノ政府ト相親睦シテ音信ヲ
通スル一之レ無ク又仏國ノ政府ニ於テモ日耳
曼ノ政府ト永世親睦ノ情ヲ通ズベキ昔ノ確乎
タル盟約モ之無レ加之仏國政府ニテ現今戰ヲ
息メ解和ニ及ントニハ何等ノ方法ヲ以テ善ト

スルヤノ考察等ニ少シモ思慮ヲ費ス_レ無ク專
ラ必敗難勝ノ戦争ヲ猶續テ為_シテ_レヲ欲スレハ
ナリ

倫敦ニ在ル普ノ在留公使コオーントベルン
トフ氏ハ英ノ執政イールガラランウイ
ル氏ニ書翰ヲ贈リ英國ノ製造司及ヒ輸
出司ヨリ仏國ニ武器及ヒ火藥彈丸等ヲ
贈与シタル旨ヲ詰問シタリ因テ英ノ
公使イールガラランウイヨリ普ノ公使
コオーントベルンストフニ答書ヲ贈リ

ガ其文ニ我英國ニ於テハ只管萬國ノ公法ニ則
トリ專ラ局外中立ノ常例ヲ守ル者ナレバ我邦
ノ施為スル所ハ往時我兵ノ魯兵トキリミ
ン魯ノ地ニ往時セバストボル戦争ノ
時英仏ノ兵ノ魯兵ト接戦セ_シ地ナリノ
ニ於テ現ニ普國ノ施シタル所置ニ倣フ者ナリ
ト答ヘタリ

普國ノウエスル河エーブル河ノ河口ヲ佛ノ軍
艦堅守シテ普船ノ往来ヲ漸截遮妨セシガ方今
ニハ右ノ軍艦盡ク此ノ河口ヨリ退キタリ

以太利國ノ兵隊ハシウ[#]夕ウエクチア^{地以}ニ割據シ
タリ是レ此地ノ居民右ノ兵隊ニ属スル^ヲヲ希
望スレハナリ

佛國ニ居留シタル英國公使ライフランス及ヒ各
國公使等ツウルスニ到着シタリ佛將^デクロオ
トハ麾下ノ兵八萬人ヲ帥ヒミウドニニ陣取タ
リ

巴勒ヘノ鐵道ノ往來ヲ禁シタリ
シヤンシイルトオルレ^ンストノ鐵道ヲ崩壞

シタリ

同月十七日^{我八月廿二日}倫敦ヨリ今十七日普兵巴勒
ノ近傍ヲ全ク取圍ミタリ

佛國ニハ數日普ノ圍ヲ受ケ之ヲ防クベキ兵力
アリヤ又巴勒ノ城郭ハ之レヲ防クニ足ルノ要
害ナルヤ否ハ疑フベキ事ニシテ未タ其確實ヲ
徴スルニ足ラザルベシ

今度ノ戦争ニ依リ縮糸ノ價甚タ下落シタリ
佛ノ廢帝拿破崙ハ囚人トナリ日耳曼城ウール

海外新聞 八

テムストーニ到着シ此城内ニ禁錮セラレシガ
此處ニテ舊來ノ病症再発セリ
佛ノ廢帝ノ后妃ハ愁嘆大方ナラスシテ鬱憂病
ノ体ナリ

佛國ニハライオンズニ於テ過激黨起リテ別ニ
共和政治ヲ設ケタリ

同日巴勒ヨリノ新報ニ普兵既ニ巴勒ヲ圍ミシ
カバ佛ニハ昼夜ヲ分タス之レヲ防クノ準備甚
タ急迫ニシテ寸刻モ休息ノ暇無シト然カレド

モ巴勒ニハ既ニ糧食モ充足シ兵備モ充備シテ
且民心モ一決シタル旨ヲ述タリ

同日倫敦ヨリ巴勒郭外ノ近傍ニ在ルムードン
ニ於テ佛普小戦数合ニ及ビタリ又ノーヂヤン
シユル、セイシノ近傍ニ於テ佛普接戦アリシカ佛
軍敗衄ニ及ヒシトノ風評アリ

千八百七十年十月十七日 我九月廿三日横濱刊行

ヂヤツハンヘラルド新聞ヨリ抄譯ス

佛國軍艦出帆ノ事

本日 我九月廿三日 佛國軍艦ハ蒸氣ヲ焚キテ殘ラス本
 港ヲ出帆セリ然レ其出帆ノ趣意ハ何故タル
 ヲ知ル可カラス又英國ノオーレン名号ノ軍艦
 ハ未タ長崎ニ滞在シバロツサ名号ノ艦ハ新嘉坡
 ニ向テ出帆シリングドーフ名号ノ艦ハバツシク
 ステーレンヨリ横濱ニ向テ出帆シ又イカリウス

名号ノ艦ハ長崎ニ向テ出帆シタリ

巴勒落城ノ風説

レヤンハイ名号ノ飛脚船到着セシヨリ巴勒ハ
四日間砲戦ノ後遂ニ普ニ降伏シタルトノ説紛
々トシテ市中ニ起レリ是キヤクタノ道路ヨリ
傳信機ノ報告ヲ得シヨリ起レル説ニシテ畢竟
其確拠アルニ非サレハ真偽未タ知ル可カラサ
ルナリ

佛ト支那トノ事件落著ノ事

確報ヲ得ルノ地ニ於テハ支那天津ノ事件ハ已
ニ落著ニ及ヒタルヲ知レリト彼支那政府ニテ
ハ嘗テ仏國ヨリ望メル謝罪ノ罰金ヲ償フト
天津ノ寺院并ニ家室ヲ再造スルトハ許諾セ
リト雖モ兼テ殺害ノ一事ニ與シタル重任ノ官
吏ヲハ刎首セシテ事ヲ済サント為セシニ今
般輦輦ノ官吏一兩輦ヲ出シテ其命ヲ償フトヲ
モ亦肯シタリ蓋シ此度ノ事件容易ニ落著セシ
ハ支那ニ取テハ實ニ天幸ト謂フ可キ者ニシテ

全ク仏國ニ於ル國事多端ナルヲ以テノ故ニシテ否ラサレハ尚大事ヲ釀シタルナル可シトナリ

高麗饑饉ノ事

九月廿二日我八月廿六日上海ヨリ高麗ノ北部今年饑饉甚シク之カ為メニ高麗人自國ヲ去リテ魯國領ニ移ル者一万五千人ニ及ヒシガ魯國政府ニ於テハ其愍ミヲ請ヒ来レル人氏ヲハ能ク手ヲ尽シテ撫育シタリ然ルニ高麗政府ニ於テハ其自

國ヲ棄テ他國ニ移住スルヲ聞テ大ニ憤リ或ル支那官吏ノ手ニ依テ此度其本國ヲ逃レテ魯國ニ移住セシ者ヲ皆帰ス可シトノ旨ヲ魯國ニ言送リシニ魯國ニテハ更ニ之ニ拘ラス兼テ高麗人ヲ我國ニ留メ置カンコトヲ欲シケレハ高麗政府ニ向テ大ニ意外ノ存意ヲ述ヘ食料ハ勿論是迄窮民ヲ救助セシ諸費ヲ残ラス償フ可シトノ答ニ及ヒタリ蓋シ是魯國ノ私欲ニ出ルモノニシテ此金高麗政府ノ自カニ及ヒ難キ

ナル可シ畢竟魯國ニテハ右一万五千人ノ移民
ヲ我手ニ属シテ之ヲ東西比利亞ノ海岸地方ニ
殖民シ以テ開化ノ一助ト為ントスルノ深キ計
畧ニ出ル所ナリ

千八百七十年第十月二十一日 我九月廿七日 横濱

刊行ギヤツパンヘラルド新聞第二千百五

十七号ヨリ抄譯ス

第九月二十三日 我八月廿八日 倫敦ヨリツール府ハ普

軍ニ降レリ

普ノ太子ノ言ニ佛軍勝利アリトノ風説ハ皆偽

リナル由ヲ云ヘリ

ガルド、モビール 仙ノ衛ノ名ノ二千人 ウエルセールス

ニ於テ普軍ニ降レリ

仏ノ船隊ハ破羅的海ヲ去リタリ

バルチック

ストラスブール五十三番ノ月堡モ亦普兵ノ為
メニ取ラレタリ

仏ノジュールス、ハーブル普ニ和議ヲ請ヒ是迄ノ

軍ノ入費ヲ盡ク償ヒ且ストラスブール及ヒ

ツノ堡砦ヲ毀キ并ニ仏ノ船隊ノ一部分ヲ渡サ

ントノイヲ云ヘリ

ビ子ラールウヰムヘルノ言ニセダンニ於ケル敗

北降忝ハ廢帝拿破崙ノ全ク不能ヨリ起レリト

廢帝拿破崙死ミタルトノ風説アリ

普軍既ニメリュンヲ有テタリ

仏ノ地方官署ヲツールスヨリボルドウニ移サ

ントセリ

仏ノ護國兵ハ巴勒ノ墨壁上ニ配列シ亦壁外へ

モ軍兵ヲ出張セシメタリ

英國ヨリ施條砲四万挺ヲ仏國ニ送ラントセシ

ヲ其政府ヨリ差届メタリ

第九月廿日我八月倫敦ヨリ仏ノ南部ニ於テ兵

廿五日

備ヲ為ス_ト頗ナリ

スダンダルト新聞紙ニ仏ノロアルノ新軍尤モ
衆多ニシテ恐怖ノ色ナシト其將ハゼ子ラール
ラモツトナリ

巴勒ノ軍兵敵ヲ悩マサンカ為ニ府外ニ出テ陣
セリ

巴勒ノ郭外ニテ小合戦アリタリ

第九月二十二日我八月廿七日倫敦ヨリ普ノ官報ニ十
七十八兩日ニ小戦アリシガ後廿日ノ合戦ニ仏

軍ノ三分隊尽ク敗走シテ巴勒府ニ逃レ入り其
生擒トナル者二三千人ニ及ベリ

巴勒府ハ全ク敵ノ為メニ取囲マレタリ

普ノ太子ノ本陣ハウセルニ在リ

普ノ軍兵ウセルセールヨリウインセン子スニ備ヘ

タリ

第九月二十二日我八月廿七日倫敦ヨリ巴勒ノ南セロ

ールニ於テ戦ヒタリ

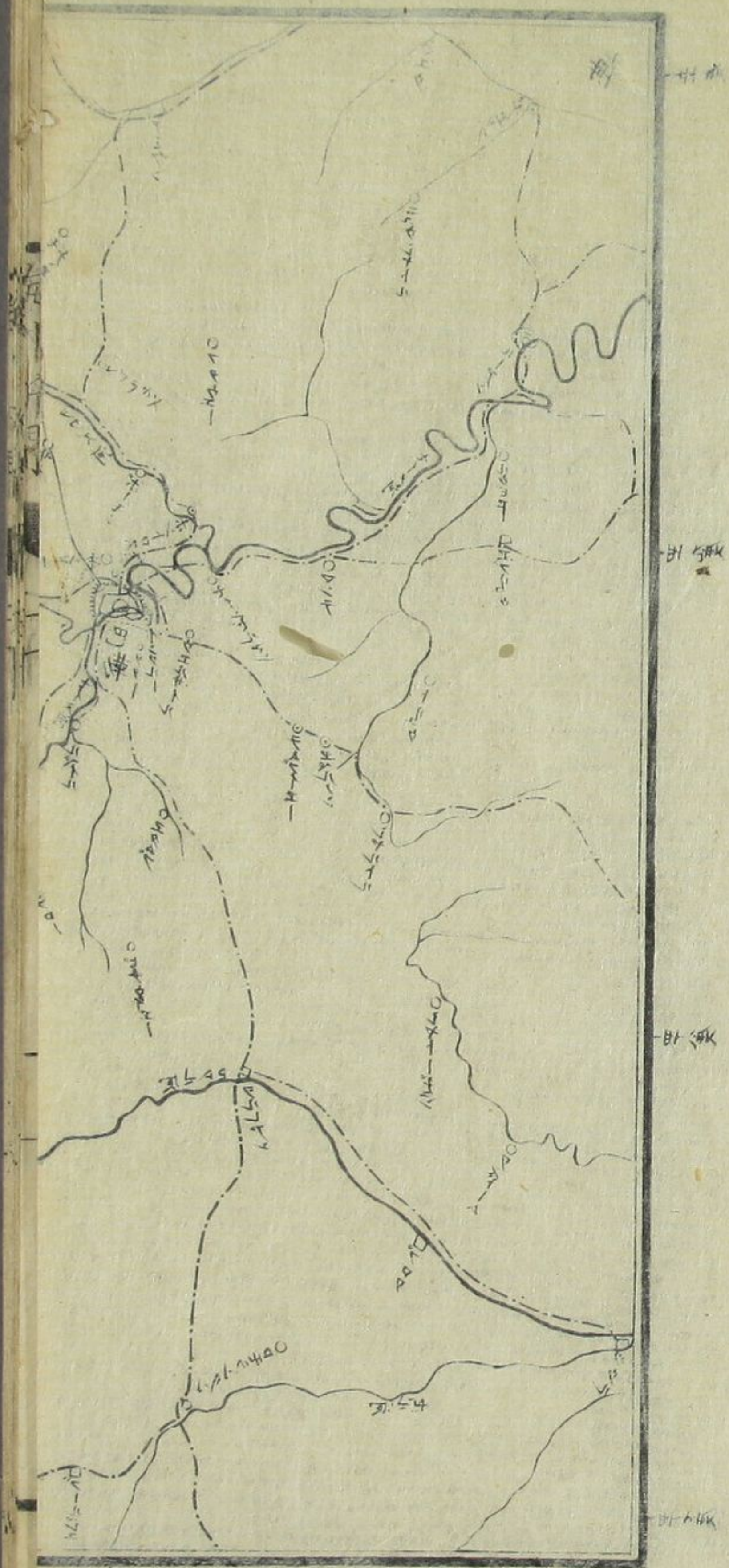
普ノコンドビスマルクト仏ノジュールスハーブ

ルトノ和約ノ評議普王ノ本陣ヘルレスニ於テ
引續テ為セリ

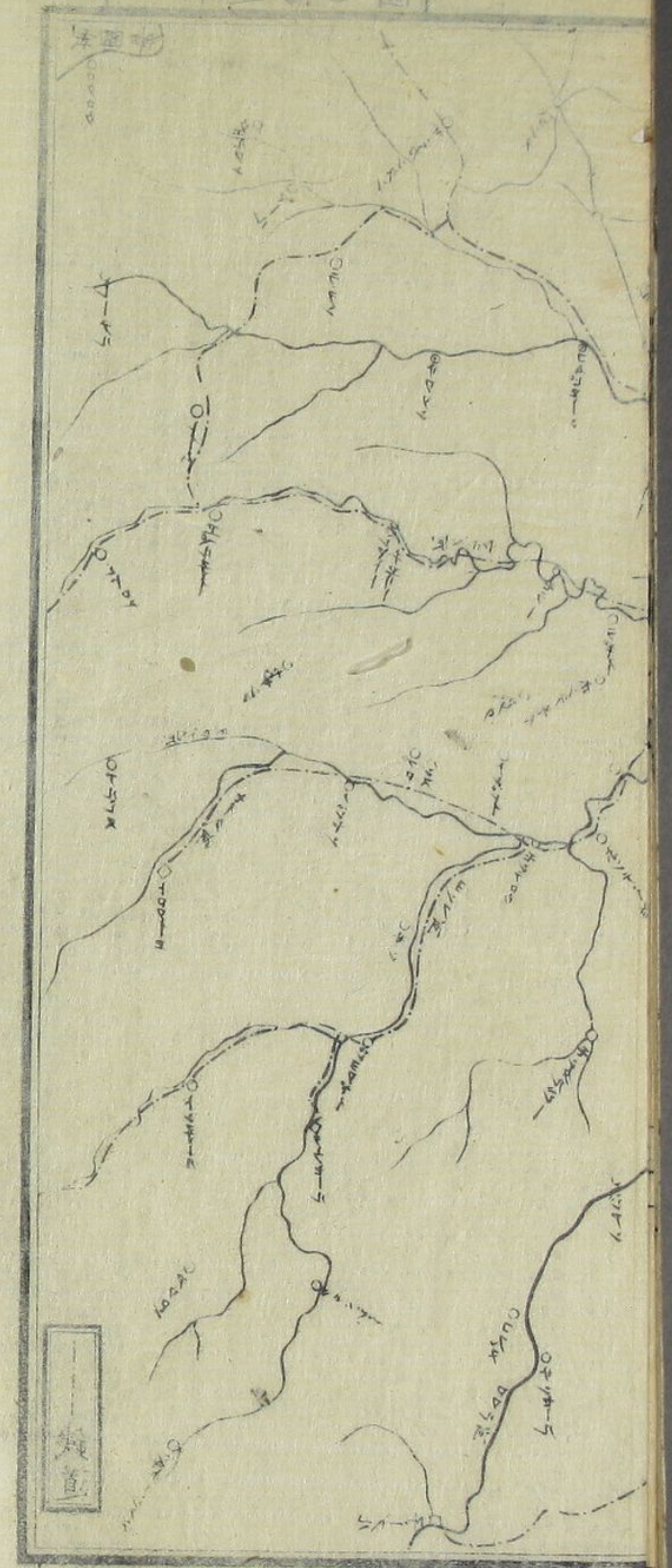
日耳曼ノ兵隊ハトレイルノ邊ヨリセイ河ヲ
渡レリ其到レルノ地ハルーエンノ戍兵ニ充ル
ナルベシ

羅馬ノ府降伏シテ教王ハシビタウエシアニ送ラ
レタリ以太利ノ諸隊ノ集軍羅馬ヲ有テリ

海外新聞十九号畢



巴拿馬新圖



五葉

海外新聞二十号

千八百七十年第十月廿七日 我十月三日 横濱刊

行エヨリ ジョジヤッポン新聞ヨリ抄譯ス

米利堅飛脚船来着ニヨリ左ノ傳信機報

告ヲ得タリ

第九月三十日 我九月六日 倫敦ヨリ 仏國ノ兵ハマン

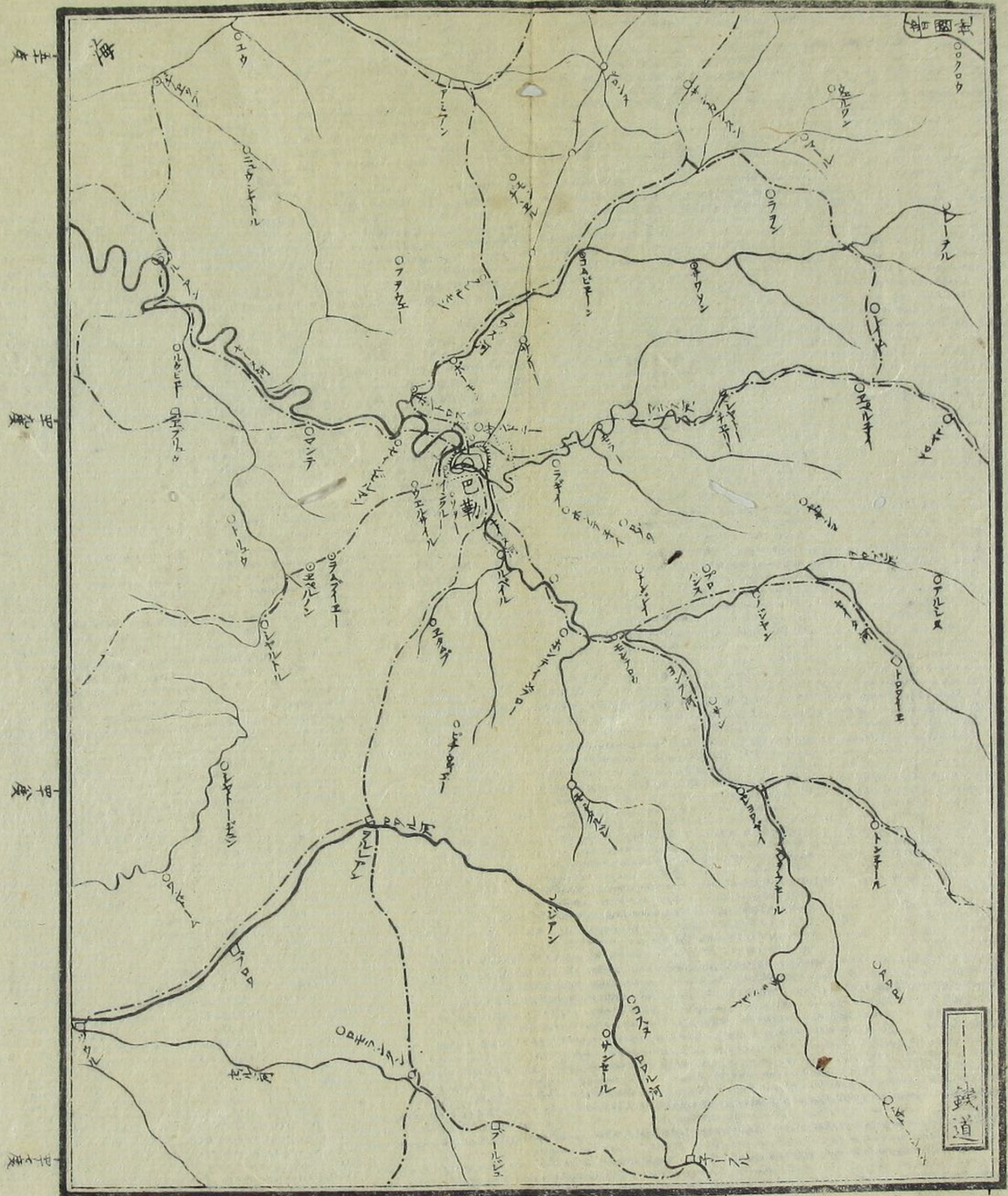
テニテ普兵ヲ追ヒ退ケタリト云フ

同日セルブール 仏國ノヨリ 仏國ノ兵船隊多分ハ

今日本港一帰着ス可シ然レモ猶仏國ノ海岸ヲ

海外新聞

巴勒近傍之圖



海外新聞二十号

千八百七十年第十月廿七日 我十月三日 横濱刊

行エコージヨシヤッポン新聞ヨリ抄譯ス

米利堅飛脚船来着ニヨリ左ノ傳信機報

告ヲ得タリ

第九月三十日 我九月六日 倫敦ヨリ仙國ノ兵ハヤシ

防禦スルニ足ルベキ兵船隊ヲ北海及ヒ英吉利
海峽ニ備ヘタリ

同日里昂ヨリ方今集募セシ所ノロワール河辺
ノ仏兵ハゼ子ラールドラモテルージ之ヲ指揮
ス可キ由ナリ

近日巴勒ノ周囲ニテ數度ノ小戦アリシガ仏兵
ハ再ヒ勝利ヲ獲タル由ナリ

同日ツーリヨリ此地ニ在ル仏國ノ假政府ヨリ
仏各州ノ鎮台等ニ二十一歳ヨリ四十歳ニ至ル

マテノ男子ヲ尽ク集募シ之ニ義勇兵ヲ加ヘテ
國中守衛ノ兵隊ヲ設ク可シトノトヲ昨日命令
シタリ又年齢二十一歳ト三十五歳トノ間ニ在
リテ陸軍ニ入りタル者ハ軍務執政ヨリ之ヲ呼
返ス可キノ命アル迄ハ必ス守衛兵隊中ニ留ル
可シト且此命令ハ國中ノ者ヲシテ尽ク兵ニ加
ハラシメントノトニシテ各州ノ鎮台ヨリ苗守
衛ニ充ル兵隊ノ兵器ヲ取上ケ進發シテ戦場ニ
臨メル守衛兵ニ之ヲ渡シ又私ニ所有スル兵器

ヲモ亦官ニ納メシメテ之ヲ兵隊ニ渡スベシト
ノ布令ニ及ビタリ

國中野武士ハ軍務執政ノ指揮ヲ受ケ戰場ニ進
發スル守衛兵ニ等シク兵律ヲ循守スベキヲ
命シタリ

傳信機ノ役所ニテ使用セラル、者ハ今度ノ軍
役ヲ免ルヘキ由ナリ

同日ヲステント比判時ヨリ本月廿七日我九月三日
セイマ河辺ニ大戦争アリテ普國ノ太子ノ指揮

セル兵ハ佛ノ堡砦モンワレリアンノ大砲ニ打
タレ全ク敗走シタリトノ新聞當地ニ達セルヲ
以テ人心之カ為メニ大ニ動揺シタリ且此戦争
ニ因リ普ノ兵ウエルサイル及ヒランブイエー
ノ地ヲ退キ普兵ノ巴勒ヲ圍ミタル兵線破レシ
カハ其普兵ハ北ノ方ソワツソンニ在ル普王ノ兵
隊ノ方ニ速カニ引退キタリ
伯靈ノ私ノ傳信機報告ニ此戦争ノ新聞ハ傳聞
ノ誤ニ出ルト云フ者アリト雖氏巴勒トルーア

海小所聞 二十 三

シミアンワランシアンヌトノ間普兵解散シ
 テ再々往来自由ナルヲ得タルヲ及ヒ佛ノ國
 内事務執政ガヘツタ氏ノ調印シタル勝利ノ
 公告書ヲワランシアンヌ府ニテ受取りタル
 等確實ナリ

同日 我九月 倫敦刊行ウオールド新聞ニブウロ
六日

シヨリノ傳信機ノ報告ニ去廿七日 我九月 佛將
三日

ヂユクローカ指揮セル兵ノ為メニ巴勒ノ西南ヲ
 圍ミタル普兵全ク打敗ラレシトナリ

佛兵其前日ゼ子ラールトロシウノ援兵ヲ得テ

モンロイル及ヒウエルサイルニ在ル普兵ノ備

ヘニ向テ進撃シ廿七日 我九月ノ拂曉ヨリウイ
三日

ル子ウフルロウトウイロフレイトノニケ所ニテ

戦ヒヲ始メタリ此時普兵頗ル勇戦ニ及ヒシカ

ウオークレソソノ森林中ヨリモンワレリアン

若及ヒセイソグルウ府ノ後ヲ廻リテ進ミ来リ

シ佛ノ生兵ノ為メニ襲ハレ遂ニ敗走シタリ普

兵ニ属スル巴丁國ノ数レジメント兵隊戦場ニ

ニテ普兵ニ背キ佛兵ト戦フヲ肯セサルヲ以テ其兵百人許モ普兵ノ指揮官ノ命ニテ斃殺ニ及ヒシト雖モ猶其餘ノ者戦ニ出ルヲ肯セズ兵器ヲ擲棄テ、森林中ニ散シタリ
普國ノ太子ノ兵ウエルサイルヲ引拂ヒブウヂ
ワルノ方ニ向テ退キタリ偕其普兵ブウヂワル
ニテセイヌ河ヲ濟ントシタル時モンワレリア
シ若ノ砲火ニ打タレ陳伍ヲ乱シテセインセル
マノ方ニ敗走シタリ此時普兵死傷ノ外敵ニ

生擒セラレシ者五千人ニ及ヒ其中ニ普國王
ノ參謀ノ士官モ加ハレル由ナリ加之加農砲ト
ミトライユーズ砲トヲ合セテ五十門ヲ佛兵ノ
為メニ奪ハレタリ佛兵此勝利ヲ獲タルヨリ
里安ヨリツウルクニ至ルマテノ道路ハ其往來自
由ニシテ敵兵ノ之ヲ支フルヲ無リシト
巴勒ヨリノ報告ニ其府内極メテ静謐ニシテゼ
子ラールトロシウノ指揮スル防守ノ兵數度ノ
勝利ヲ獲タリシヨリ兵隊モ平民モ等シク皆大

ニ奮登スルニ至レリ

佛人ノ説ニ今度ノ戦争以来普兵ノ損失スル極メテ夥多ニシテ殊ニ巴勒郊外ノ戦ニテ死傷シタル者多カリシカハ普國ノ官吏ハ其事實ヲ新聞ニ著ハサ、ラン、ニ注意セリト

普兵ニ生擒セラレタル佛國ノ兵士ハハノフ川普ノ名ニテ溝渠ヲ鑿シ為ニ使役セラル、由ナリ

巴勒ヨリ最近報告ニロシユホルトギヌスター

フル、ランストノ指揮ニテ其府内ニバリカード敵兵ノ往來ヲ支ンカ為メニ諸物ヲ預備ノ為メヲ堆積シテ急速ニ造タル物ヲ云

頻リニ造リ立ル由ナリ
仏ノ守衛兵ハ敵兵ヲ一擧シテ鏖殺ス可キ新發明ノ兵器ヲ以テ備ヘタリ其器械ハ極メテ巧妙ノモノナルガ共製造ノ法ハ深ク之ヲ秘シタリ此兵器ニ依リテミトライユーズ砲銃ヨリモ更ニ大功ヲ奏ス可シトノヲヲ期望シタリ
同日ルリアンヨリ巴勒ヨリ来レル輕氣球ナン

テニテ地ニ降リレカ其輕氣球ニ數百通ノ書簡
ヲ載セテツウルニ赴キタリ

譯者曰當時巴勒ハ敵兵ノ圍ミヲ受ク其假
政府ハツウルニ在ルカ故ニ其間ノ往來自
由ナラサルヲ以テ斯ク輕氣球ヲ用ヒテ書
信ノ往来ヲ通スルナル可シ蓋シ氣球ヲ戰
場實際ノ用ニ供セシヲ實ニ古來未曾有ノ
一奇事ト謂フ可シ但シ此事ハ後ノ号ニ詳
ナリ

ストラスブール城ハ其守兵一万七千人ト共ニ
普兵ニ降レリト云フ

同日ツウルヨリ巴勒ヨリノ報告ニ佛ノ會計事
務執政ノ命ニテ諸官員ノ俸ヲ減シ其他諸費ヲ
省キテ戰ノ為ニ許多ノ金額ヲ備ヘントスル由
ナリ

千八百七十年第九月十日我八月十五日桑方西斯
哥サフラン每週刊行ブレチン新聞ヨリ抄譯ス

仏國假政府ノ事

仏國ニ於テ今般假政府ヲ設ケタル事ヲ余等他
ノ新聞ニテ其場所ノ事ヲ記セシ後今又飛脚到
著シテ左ノ報告ヲ得タリ當時假政府ノ議負ハ
皆才識拔群ナル者ヲ萃テ其負七人ヲ以テセリ
意ハ是等ハ皆共和政治党ニシテ其長ハ必ス
ジュール、ハーゲル氏ナルベシ諸仏國ハ共和政

治トナリテヨリ巴勒ノ帝宮チユイレリスニ
於テハ直ニ^ハ國帝王ノ旗章ヲ察シ新衛兵ハ四
民ト結義兄弟ノ交際ヲ為スニ至リ國內騷乱ノ
景況市街ニ囂然トシテ人心之ガ為メニ恟々々
ハ爰ニハ^ハーゲル氏ト云ヘルハ法律政治学ニ秀
達ノ名譽アル者ナルカ今年齡六十歳ニシテ元
レヲンスノ産ナリ嘗テ千八百三十年^{我天保}第
十世チャールレスニ敵對ノ擾乱ニハ功ヲ第一
ニ顯ハシル後絶ヘス心ニ四民共和ノ意ヲ抱テ

其論ヲ主張シ千八百四十八年^{我嘉永}ローイス
ピリッヒニ抗拒セシ時ノ亂ニモ大ニ國事ヲ助ケ
テ國內執政ノ書記長官ニ進ミ其後又外國事務
ノ下等書記トナレリ此ハ^ハーブル氏ハ曾テ廢帝
拿破崙ノ大紗領ニ撰舉サル、後チ又之カ讎敵
トナル者ニシテ千八百五十一年^{我嘉永}断然帝
國ニ誓約ヲ為^オヲ嫌ヒ千八百五十八年^{我安政}
刺客ヲルレニニ出會セシ時自ラ防テ其難ヲ免
レ其後下院ノ議員トナリタリ今般廢帝拿破崙

ノ所置宜シカラザルヲ以テ敗亂ヲ招クニ至リ
シトテ深ク憤リテ嚴シク之ニ抗拒セシトナリ
此ハトブル氏黨與ノ中ニハ又英才ノ者數輩在
リケレハ是等又議負ノ者ト戮力合心シテ宜シ
ク徳沢ヲ施シ以テ四民ノ人望ヲ得苛酷ノ法ヲ
省キテ國事ヲ圖ラントコソ是余等ノ只管希フ
所ナリ若シ然ラスシテ苛酷ノ法ヲ行フ時ハ再
ヒ國亂ヲ醸スニ至ラン彼古來佛國共和政治ノ
法律ヲ建テシ時其嚴刻ニ失スルヨリ遂ニ君主

擅制ニ皈シタルノ確證ハ分明タル可キナリト
佛ノ假政府ノ長ゼ子ラールトロシュノ畧傳
ゼ子ラールタルジュールトロシュ氏ハ暫時巴勒
ノ軍事指麾官ナリシガ今新政府ノ長トナリテ
且軍事ノ總督タリ此人能ク共和政治黨ノ人望
ヲ得兵事ニ鍊熟シ頗ル英敏ノ士ニシテ今年齡
五十五歳ニ至リシカトモ其智略勇悍壯士ニ讓
ラス此人久シク廢帝拿破崙ニ容ラレサリシガ
曾テ佛將バゼー又陸軍ノ指麾官トナリテ普軍ト

ハゲノ一ニ戦ヒ佛軍大ニ敗レ且此役ニ廢帝ノ
 寵臣タルルビエーフ氏大ニ策ヲ失ヒレヨリ即チ
 之ニ代テ爾後陸軍提督ニ命ゼラレ其後又軍事
 總督ニ昇進シタリ殊ニ今般巴勒防禦ノ準備ニ
 ハ努カシテ其効驗ヲ顕ハシ又能ク一揆動乱ヲ
 鎮壓スルノ才ニ長ゼレカハ何時ニテモ此人出
 テ智辨ヲ以テ之ヲ裁判スル時ハ必ス其黨ヲシ
 テ兵器ヲ動スニ至ラシムル事ナシトナリ余等
 爰ニ近頃世ニ公布セルトロシエー氏カ曾テ位官

昇進ノ事實ニ就キ其著明ナル者ヲ今揭示セリ
 此人千八百四十年我天保十一年百總ハタラシ次官ニ進ミ同四
 十三年我天保十四年ニ百總ニ昇進ス又此時アルケリ
 一ニ於テ將ビシヨト共ニ參謀ノ職ヲ務メ千
 八百四十六年我弘化三年ニ於テ副愷シヨ基補佐ニ進ミ
 千八百五十二年ニ於テ副愷シヨ基ニ進ミ千八百五
 十四年ニ於テ我安政元年參將ニ進ミ又千八百六十
 四年ニ於テシビエーゼ子ラールニ昇進セリ嘗テ
 クリミールノ戦争ニ於テゼ子ラールスタフノ長

海卜所聞

官トナリシカ此役ニハ實ニ仙軍ノ基心トナル
者ハ此トロヒル氏ナリト史者キングレーキ氏
モ之ヲ獎揚シテ記シタリ千八百六十六年我慶應ニ
年ニ於テ仙國ノ軍制改革ノ命ヲ蒙リタリ此軍
制改革ノ由テ起ル所ハ嘗テ奕帝拿破崙サドワ
ニ出陣シ自ラ其軍ノ景狀ヲ目撃シ既ニ軍制一
新時節到來シタルヲ會得セシヨリ始メシ事ナ
リ又千八百六十六年我慶應ニ於テ有名ノ書ヲ
著ハレ之ヲ刊行スル事十回ニ及ヒ以テ其功業

ヲ世ニ示シタリ其後又ルアルメーフランセー
ズト題セル一小冊ヲ著ハレテ之ヲ世ニ公行シ
又今般普仙兩國ノ戦争ニ於テ自ラレオン境ニ
出テ軍ノ狀情ヲ目前ニ觀察セシヨリ猶又大ニ
其學術ヲ裨益シタリト云フ
此新聞ノ如キ疑フベキ事多シト雖モ記載ノ
儘ヲ抄譯シタリ

海外新聞二十号畢

御用御書物所

東京本町四丁目

紀伊國屋源兵衛

藏版

